

製品名: Rad9 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab16851

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	RAD9A
別名	RAD9A; Cell cycle checkpoint control protein RAD9A; hRAD9; DNA repair exonuclease rad9 homolog A
遺伝子 ID	5883.0
SwissProt ID	Q96C41
免疫原	抗血清はヒト RAD9 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 257-306

背景

触媒活性: 3'から 5'方向へのエキソヌクレアーゼ切断により、ヌクレオシド 5'-リン酸が生成する。機能: DNA 修復において主要な役割

を果たす 9-1-1 細胞周期チェックポイント応答複合体の構成要素。9-1-1 複合体は、RAD17-複製因子 C (RFC) クランプローダー複合体による損傷時に DNA 損傷部にリクルートされる。その後、ロングパッチ塩基除去修復 (LP-BER) に関与するいくつかのタンパク質に対する DNA 上でのスライディングクランププラットフォームとして機能する。9-1-1 複合体は、プライマーテンプレートの 3'-OH 末端に対する親和性を高めることで DNA ポリメラーゼベータ (POLB) 活性を刺激し、LP-BER が進行する部位に対して POLB を安定化させる。異なる配列および長さの二重、ニック、またはギャップフラップを持つ基質に対するエンドヌクレアーゼ FEN1 切断活性。および DNA リガーゼ I (LIG1) によるロングパッチ塩基除去修復基質へのリン酸化反応。RAD9A は 3'→5'二本鎖 DNA エキソヌクレアーゼ活性を有する。PRKCD によるリン酸化は 9-1-1 複合体の形成に必要であると考えられる。PTM: DNA 損傷がない場合、セリンおよびスレオニオンアミノ酸が恒常的にリン酸化される。DNA 損傷があると、PRKCD および ABL1 によって過剰リン酸化される。PRKCD によるリン酸化は 9-1-1 複合体の形成に必要であると考えられる。類似性: rad9 ファミリーに属する。サブユニット: RAD9A、RAD1、および HUS1 からなるトロイダル 9-1-1 (RAD9-RAD1-HUS1) 複合体の構成要素。9-1-1 複合体は、LIG1、POLB、FEN1、RAD17、HDAC1、RPA1、および RPA2 と会合します。9-1-1 複合体は RAD17-RFC 複合体と会合します。RAD9A は、BCL2L1、FEN1、PRKCD、RAD9B、HUS1、RAD1、ABL1、RPA1、ATAD5、および RPA2 と相互作用します。触媒活性: 3'から 5'方向へのエキソヌクレアーゼによる切断により、ヌクレオシド 5'-リン酸を生成します。機能: DNA 修復において主要な役割を果たす 9-1-1 細胞周期チェックポイント応答複合体の構成要素です。9-1-1 複合体は、RAD17-複製因子 C (RFC) クランプローダー複合体によって DNA 損傷部位にリクルートされます。その後、ロングパッチ塩基除去修復 (LP-BER) に関与するいくつかのタンパク質のための DNA 上でスライディングクランププラットフォームとして機能します。9-1-1 複合体は、プライマーテンプレートの 3'-OH 末端への親和性を高めることで DNA ポリメラーゼベータ (POLB) 活性を刺激し、LP-BER が進行する部位に対して POLB を安定化します。また、異なる配列および長さの二重、ニック、またはギャップフラップを持つ基質に対するエンドヌクレアーゼ FEN1 切断活性、およびロングパッチ塩基除去修復基質に対する DNA リガーゼ I (LIG1) 活性も備えています。RAD9A は、3'→5'二本鎖 DNA エキソヌクレアーゼ活性を有しています。PRKCD によるリン酸化は、9-1-1 複合体の形成に必要であると考えられます。PTM: DNA 損傷がない場合、セリンおよびスレオニオンアミノ酸上で構成的にリン酸化されます。DNA 損傷があると、PRKCD および ABL1 によって過リン酸化されます。PRKCD によるリン酸化は、9-1-1 複合体の形成に必要であると考えられる。類似性: rad9 ファミリーに属する。サブユニット: RAD9A、RAD1、HUS1 からなる環状 9-1-1 (RAD9-RAD1-HUS1) 複合体の構成要素。9-1-1 複合体は、LIG1、POLB、FEN1、RAD17、HDAC1、RPA1、RPA2 と相互作用する。9-1-1 複合体は、RAD17-RFC 複合体と相互作用する。RAD9A は、BCL2L1、FEN1、PRKCD、RAD9B、HUS1、RAD1、ABL1、RPA1、ATAD5、RPA2 と相互作用する。

研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達、DNA/RNA、DNA 損傷と修復、DNA 損傷応答、DNA 損傷認識

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°C で一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。